

松沢神奈川県知事が箱根で記念植樹

霧が森林を覆う中、モミジの赤が鮮やかに映える箱根芦ノ湖西岸歩道で、神奈川県松沢知事が植樹を行いました。

11月11日(水)、東京神奈川森林管理署箱根森林事務所畑引山国有林90林班で神奈川県主催の「芦ノ湖西岸歩道の魅力を高める県民協働での修繕活動」の一環としての記念植樹です。

この活動は神奈川県が平成21年2月に発表した「神奈川力」まるごと活用事業(愛称：KANAGAWA POWER GOGO)に位置づけて実施しており、芦ノ湖の景観を楽しむビューポイントの整備と、東京神奈川森林管理署と共同による広葉樹の植樹を行う事とし、松沢県知事が現場を訪問されました。

当日はあいにくの雨模様で、ボランティアの方達によるウッドチップの敷き詰めや、笹の刈り払いなどの歩道整備は中止になりましたが、知事を始め、かながわ環境大使で歌手の白井貴子さんら代表者が、安孫子署長の芦ノ湖西岸における施業の説明を聞きながら、ミズナラ、ホオノキ、ケヤキを植え、将来多様な針広混交林になることを願いました。



植樹の後、一行は箱根町ふれあい館に移動し、知事を交えて意見交換会を行い、東京神奈川森林管理署長、環境省箱根自然環境事務所長、箱根町副町長、箱根町歩く会会長、箱根観光協会ガイド協会副会長、ウォーキングコース連絡協議会員、湘南地域建設業協会会長、かながわ環境大使の皆さんで、終始なごやかな雰囲気です。多くの意見が出されました。

署長からは「これからは針葉樹だけではなく、広葉樹も交えながら芦ノ湖西岸を素晴らしい風景林として管理していきたい」と話し、知事からは「CO₂削減問題で、森林の維持管理は最優先課題



である。これからも是非頑張って頂きたい」と激励されました。また、「箱根を歩いて楽しめる国立公園にしたい」と述べられ、箱根西岸歩道の整備については、「これからもボランティアの皆さんのご協力をお願いしたい」と話され、紅葉が最盛期の箱根を後にしました。